No. 85

The University of Tokyo Forests News

科学の森ニュース

March 10, 2019

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

樹芸研究所と南伊豆町の連携・協力に関する協定書の締結

樹芸研究所

本学農学生命科学研究科（研究科長：丹下 健）と静岡県南伊豆町（町長：岡部克仁）は、2018 年 10 月 29 日（月）、連携協定を締結しました。締結式のセレモニーでは、鴨田重裕所長による基調講演『「樹芸研究所」が目指すもの』が行われ、町との連携を意識して取り組んできたカカオ・バニラやユーカリ事業などを南伊豆町民や農林業に携わる方々に紹介しました。本協定に基づいて、南伊豆町の「ふるさと寄付」制度により、町産の魅力的な返礼品を堪能することで町を支援し、同時に私どもの教育研究活動を支援いただけます。詳しくは、東大演習林 HP ふるさと納税を利用した寄付：http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/furusato-nouzei.html　をご覧ください。

締結調印後、握手を交わす岡部町長（右）と丹下研究科長（左）

国立台湾大学実験林と東京大学演習林間の協定締結式

国際交流委員会

2018 年 12 月 12 日（水）、国立台湾大学生物資源農学院において、国立台湾大学（以下、台大）実験林と東京大学（以下、東大）演習林間の協定締結式が行われました。締結式は、戦略的パートナーシップに関係して 12 ～ 13 日に開催された合同会議の合間を縫う形で執り行われました。台大の盧 虎生院長、東大の丹下 健研究科長の挨拶に続き、台大実験林の蔡 明哲林長と東大演習林の福田健二林長が協定書に署名を行いました。両演習林間には 1993 年に覚書が交わされておりましたが、現状にそぐわなくなってきたため、今回はこれを破棄して新たな協定を締結したものです。新しい協定では、両者の研究協力と研究資金の獲得、研究のためのフィールド・施設・人的サポートの相互厚遇、客員教員・研究員の促進が謳われています。新たな協定の締結によって、両者の共同研究が一層拡大・進展することが期待されます。

左から盧院長、蔡林長、福田林長、丹下研究科長

技術室有志が業務改革理事賞を受賞

北海道演習林

2018 年度の業務改革課題募集事業において、当演習林技術室有志（中川雄治技術専門職員、木村恒太技術職員、小川 瞳技術専門職員）の課題「野外調査データ収集作業へのタブレット端末活用による業務効率化」（犬飼浩技術専門員による推薦）が理事賞を受賞し、2018 年 12 月 19 日（水）に本郷キャンパス大講堂（安田講堂）で表彰式が行われました。受賞内容は電子野帳システムの構築・導入により森林調査業務の効率化を図ったもので、スマート林業の一環ともなる取り組みです。今後はほかの地方演習林も含め、多方面への活用が期待されます。

里見理事から表彰を受ける木村氏（中央）と犬飼氏（左）

アイヌ文化の伝承・振興のためハリギリを提供

北海道演習林

アイヌ文化復興に関するナショナルセンター「民族共生象徴空間」が 2020 年 4 月に白老町ポロト湖畔に開業します。その運営に当たる公益財団法人アイヌ民族文化財団が文化伝承のために製作するアイヌの伝統船チプ（丸木舟）、イタオマチプ（板綴船）の材料として、ハリギリ 4 本を提供しました。人が乗るための船材にするには、大径・通直・腐れが無い等の条件が厳しく、現在では入手が困難なようです。伐採前にはカムイ（神）に感謝を伝える儀式が行われました。製作された船は、象徴空間に設置される国立アイヌ民族博物館・国立民族共生公園で展示・利用される予定です。

伐採前の儀式・カムイノミの様子
（写真提供：アイヌ民族文化財団提供）

クローズアップ

‘電子野帳’が拓くフィールドワークの未来

北海道演習林

ICT 華やかな昨今、電子野帳という言葉もよく耳にするようになりました。北海道演習林でも森林調査業務への電子野帳の導入に取り組んでいます。このシステムでは、まず PC 上でデータベースソフト（FileMaker）を用いて野帳の様式を構築します。データ項目は調査によって異なるので、各種調査（固定試験地の測定、標準地の林況、収穫予定木の選定、生産丸太の受入など）に応じてそれぞれ様式を作成します。そしてこの様式をタブレット端末（iPad など）に取り込み、野外で調査データを直接入力します。

入力に際しては、チェックボックスによる選択入力を基本としており、数字や文字の入力が不要であるため簡便で操作性に優れています。また、あり得ない数字を受け付けない、全ての項目を入力しないと入力が完了しないなどの入力制限を設けておくことで、誤入力や入力漏れを防げるため、入力の正確性も向上します。さらに、端末のカメラを用いて写真を撮ったり、GPS と連動して位置情報を記録したりと、拡張性にも優れています。調査と同時に集計や検索ができるので、その場で数量などを確認できるのも大きな利点です。入力データは PC にエクスポートできるため、室内作業の削減とペーパーレス化に貢献します。何よりも、様式が自作なのでオンデマンドでカスタマイズ性が高く、不具合が生じた際にもすぐに対処できます。

現在、電子野帳の導入は、エゾシカのライトセンサス、野生動物の目撃記録、銘木市での販売額集計など、他の様々な調査・業務へと拡がっています。スマート化の波は、私たちの身近にもやってきています。

収穫調査野帳の入力画面（左）と作業風景（右）

演習林のイベント情報

詳細はホームページをご覧になるか、各地方演習林にお問い合わせください。

【3 月】
2~4 日 全学体験セミナール「ダムと土砂と海」☆（生水研）
4~8 日 体験活動プログラム
「森が社会に貢献する－持続可能な森づくりへの挑戦－」☆（北海道）
4~8 日 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ 3」☆（樹芸）
5 日 内浦山県民の森催事「早春ハイク烏帽子山から初日山」（千葉）
6 日 2018 年度研究報告会（公開講座）（富士）
10 日 養老渓谷トレイルラン◆（千葉）
10~13 日 体験活動プログラム「伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く」☆（樹芸）
11~ 15 日 体験活動プログラム
「森が社会に貢献する－持続可能な森づくりへの挑戦－」☆（北海道）
23~25 日 体験活動プログラム
「南伊豆という一地域との連携に学ぶ」☆（樹芸）

【4 月】
20 日 休日公開（田無）
20~21 日 春の一般公開（千葉）
20~21 日 鴨川市東京大学交流事業野鳥の巣箱をかけよう！
（巣箱観察会）◆（千葉）
未定 東大教職員向け特別ガイド「春の彩りを訪ねて」◆（富士）

【5 月】
5 日 休日公開（田無）

凡例…無印：一般向け　☆：学生向け　◆：その他

科学の森の動植物紹介

富士癒しの森研究所

ワカサギ
キュウリウオ科　ワカサギ属
学名：*Hypomesus nipponensis*

山中湖のワカサギは東大と深いかかわりがあります。まず、山梨県出身で当時の水産学第一講座教授だった雨宮育作先生によって、茨城県・霞ヶ浦のワカサギの卵が導入されました。1922（大正 11）年のことでした。その後、ワカサギは順調に定着しました。1936（昭和 11）年には、森林利用学講座の西垣晋作先生が氷上の穴釣りを導入し、これはすぐに地域にとって冬の観光資源となりました。今は湖面が十分に結氷しませんが、冬になるとワカサギ釣りのドーム船で湖面がにぎわいます。湖畔では、春先に浅瀬に寄る魚影が見られることもあります。

名所・名物案内

郷台旧学生宿舎

千葉演習林

郷台旧学生宿舎は、清澄作業所（1903（明治 36）年完成）に次いで千葉演習林で 2 番目に古い建物です。1908（明治 41）年 3 月に完成して以来、学生実習等に使用されてきました。現在は宿舎としての役割を終え、実習等で日中の休憩施設として利用されていますが、完成当時とほぼ同じ姿で維持されています。写真上は、宿舎の完成から 2 カ月後の 1908 年 5 月に、当時の東京帝国大学総長・濱尾 新（はまお あらた）と東京帝国大学農科大学学長・松井直吉（まつい なおきち）が林学実科 3 年生らとともに訪れた際のものです。濱尾総長らの後ろに写っているモミの大木は近年まで存在しましたが、樹勢が衰えたため 1999（平成 11）年 2 月 23 日に伐採され、現在は切り株のみが残っています。

写真上：完成直後の郷台旧学生宿舎と濱尾総長一行（1908 年撮影）
写真下：現在の郷台旧学生宿舎

科学の森ニュース（The University of Tokyo Forests News）
第８５号（No. ８５）
発行日 平成３１年３月１０日
発行人 福田 健二
編集人 後藤 晋
〒 113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林広報情報委員会
TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494
E-mail mori2017@uf.a.u-tokyo.ac.jp